

製品名: カルレティキュリンウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86458**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:200-1:500,FC 1:10-1:100
分子量	Calculated MW:48 kDa; Observed MW:55 kDa

抗原情報

遺伝子名	Calreticulin
別名	RO; CRT; SSA; cC1qR; HEL-S-99n
遺伝子ID	811
SwissProt ID	P27797
免疫原	ヒトカルレティキュリンの合成ペプチド

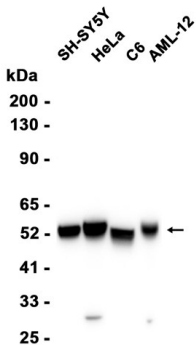
背景

カルレティキュリンは、小胞体腔内における主要な Ca(2+)結合（貯蔵）タンパク質として機能する多機能タンパク質です。また、核

内にも存在することから、転写調節に関与している可能性が示唆されています。カルレティキュリンは、核内受容体スーパーファミリーの DNA 結合ドメインのアミノ酸配列とほぼ同一の合成ペプチド KLGFFKR に結合します。カルレティキュリンは、全身性エリテマトーデスおよびシェーグレン症候群患者の特定の血清中の抗 Ro/SSA 抗体を含む抗体に結合します。種間で高度に保存されており、カルシウムと結合する可能性のある小胞体および筋小胞体にも存在します。カルレティキュリンのアミノ末端はグルコシルコリド受容体の DNA 結合ドメインと相互作用し、受容体が特異的なグルコシルコリド応答エレメントに結合するのを阻害します。カルレティキュリンは、アンドロゲン受容体とそのホルモン応答性 DNA エレメントとの結合を阻害し、生体内におけるアンドロゲン受容体およびレチノイン酸受容体の転写活性、ならびにレチノイン酸誘導性神経分化を阻害することができます。したがって、カルレティキュリンは核内ホルモン受容体による遺伝子転写調節の重要な調節因子として作用する可能性があります。全身性エリテマトーデスはカルレティキュリンに対する自己抗体価の上昇と関連しているが、カルレティキュリンは Ro/SS-A 抗原ではない。以前の論文ではカルレティキュリンが Ro/SS-A 抗原であると言及されていたが、これは後に反証された。IgG および IgM クラスの完全先天性心ブロックを有する乳児では、ヒトカルレティキュリンに対する自己抗体価の上昇が認められる。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

画像データ



カルレティキュリンウサギモノクローナル抗体を 1:500 で使用して、SH-SY5Y、HeLa、C6、AML-12 細胞抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。